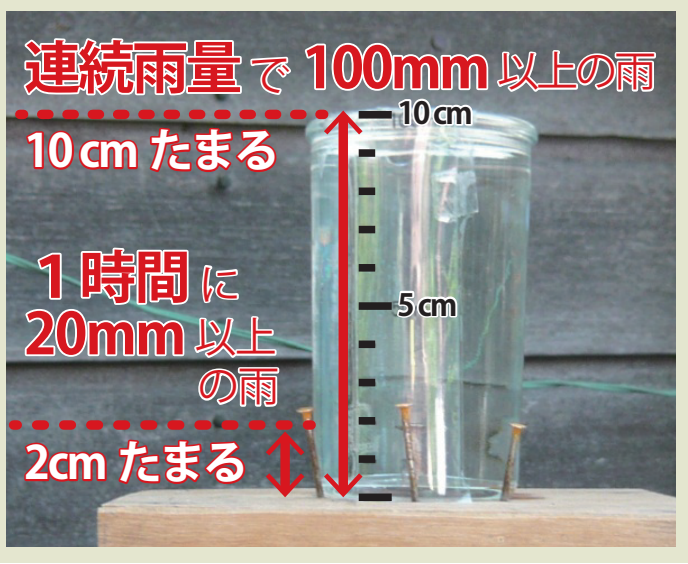


雨量に注意する習慣をつけましょう

気象予報などを見るときには、雨量にも気を配る習慣をつけましょう。自宅周辺の雨量を測ることで、自宅周辺の土砂災害の危険の高まりを把握しやすくなります。
右図の雨量が土砂災害発生の危険が高まる目安とされています。

高さ10cmのカップ酒の瓶を使うと風で倒れにくく便利です



前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう

発生前には…

がけ崩れの

がけに割れ目が見える

がけから水が湧き出ている

がけから小石がぱらぱら落ちてくる

発生前には…

土石流の

急に川の流が濁り、流木が混ざっている

雨が降り続いて、川の水位が下がる

山鳴りがする

発生前には…

地すべりの

沢や井戸の水が濁る

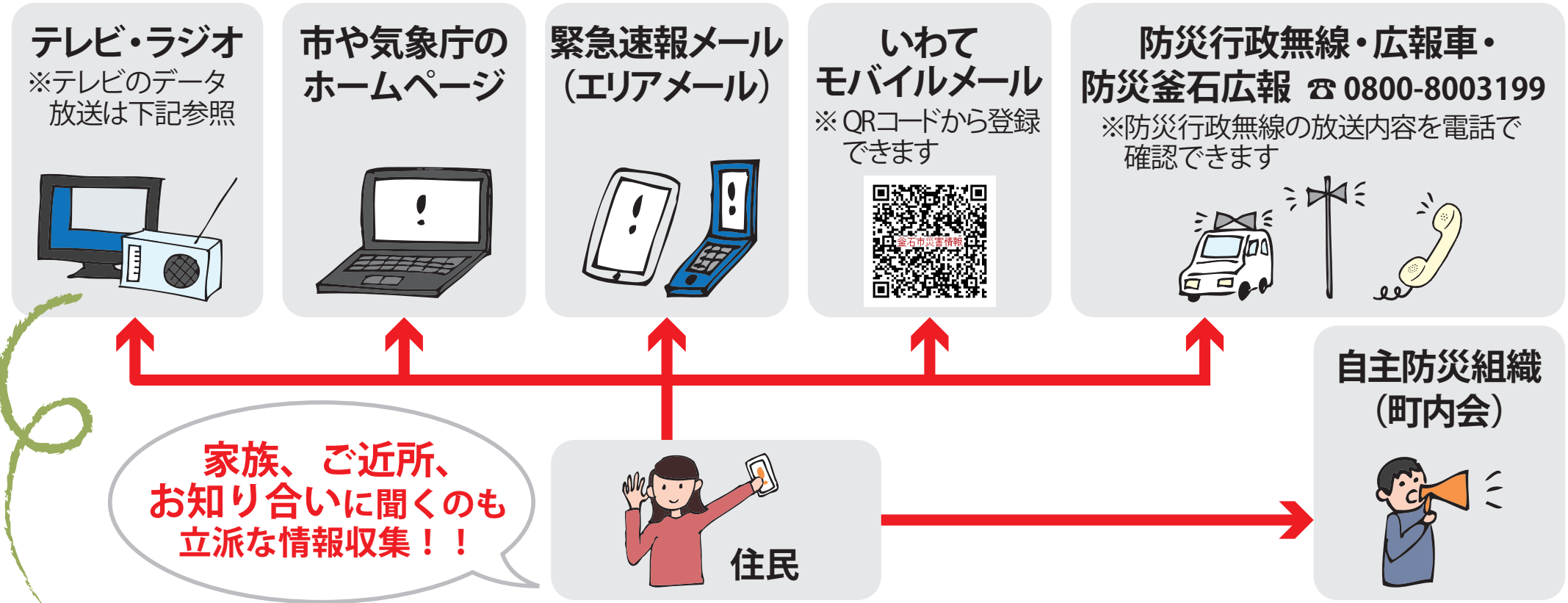
地面にひび割れができる

斜面から水が噴き出す

この他にも・・・

- 地鳴り、木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようににおい（腐葉土、下肥のにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとる など

情報を積極的に収集し、避難対応に活用しましょう



データ放送での確認方法 地デジテレビでNHK（地デジ1ch）を選択し、リモコンの**d** ボタンを選択

① 防災・生活情報を選択

② 確認したい情報を選択

③ 河川の水位・雨量を確認

山谷町内会自主避難計画

山谷町内会は、住民全員が雨の量や周辺の様子に注意し、地域で避難開始を判断して住民全員で避難する仕組みをつくりました。以下の項目をみんなで実践しましょう。

- ① 日頃からやっておくこと
裏面の防災マップを参考に、降雨時に確認できる予兆現象や、自宅周辺の避難場所（比較的安全と思われる場所や建物）、避難経路、住民間の連絡方法を確認しておきましょう。カップ酒の瓶等を用いて、雨量を計測する習慣をつけておきましょう。
- ② 雨が降り始めたら、**自宅周辺の状況に注意**を払う
 - 土砂災害が起こる目安の雨が降っていないか、家の外の様子を確認しましょう。（※1時間に20mm、連続雨量で100mmの雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。）
 - **避難開始の目安**となる現象が起きていないか、自宅周辺の様子を確認しましょう。

③ **自主避難基準** に達したら、町内会役員等に報告して、**すぐに避難対応**！

自主避難基準 以下のような状況になったら、自主避難を開始してください。

- **自主避難の基準** が確認された場合（洪水・土砂災害緊急避難地図を参照）
- 地域内のがけや沢で **土砂災害の予兆現象（裏表紙に示す現象）** が確認された場合
- 釜石市役所が **“避難準備・高齢者等避難開始”**、**“避難勧告”**、**“避難指示（緊急）”** を発令した場合

※上記以外の状況でも避難が必要と思う状況になった場合や、台風接近などで早い段階で大雨が予想される場合においても、身を守ることを第一に考えた避難対応をしましょう。

いざというときの避難対応 ∥「**早めの避難**」が重要！避難に時間のかかる方は早めの行動が必要です∥

台風や深夜の大雨が事前に予測される場合	唐丹小学校・唐丹中学校 体育館
遠くまでの避難が困難な場合	比較的安全と思われる最寄りの建物・場所へ避難 →集会所に近い世帯は、山谷集会所へ →集会所から遠い世帯は、自宅内待機 ※危険区域内にお住まいの方は山谷集会所へ避難
移動に危険が伴う場合（すでに道路が冠水など）	がけや沢から少しでも離れた頑丈な建物の2階以上へ 状況によっては自宅待機が最も安全な場合もあります

この計画は、平成28年10月～12月に実施した「洪水・土砂災害に対する警戒避難体制の整備支援事業」を通じて、山谷町内会として検討したものです。

釜石市 唐丹地区 洪水・土砂災害緊急避難地図

山谷町内会

現在の技術では正確な雨量予測や災害発生地の特定が難しいため、避難勧告等に依存しすぎず、**地域住民自らで危険に気づき、いざというときに避難の判断につなげる**ことが大切です。

住民懇談会で把握した情報

避難開始の目安となる現象

降雨時に確認される前兆現象

過去に発生した災害

その他の事柄

比較的安全と思われる場所や建物

その他の地域情報

避難の目安

◆山谷橋上流で増水により石が転がり、ゴロゴロ音がするとき

【連絡】

班毎に状況確認→班長→町内会長

町内会長→避難の呼びかけ、市・消防団に通報

土砂災害の危険性

岩手県砂防基礎調査結果に基づく区域

土砂災害の危険性が特に高い区域

急傾斜地崩壊の危険性が高い区域

土石流の危険性が高い区域

岩手県による土砂危険区域

がけ崩れの発生するおそれのある区域

土石流の発生するおそれがある区域

その他の危険性

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の空中写真及び基盤地図情報を使用した。(承認番号 平 28 情使、第 618 号)

